

令和 7 年度 sakura 保育園

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書①

園名	sakura 保育園
活動①	2025 年 7 月～9 月 日々の保育の中で体験した姿
活動クラス	全クラス 0・1・2 歳児クラス
年間のテーマ	音

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉 音

〈テーマの設定理由〉

・日頃から音に興味を持つ姿がみられるため、音に関する好奇心・探究心を更に伸ばしていきたいと思った。

2. ねらい

- ・子どもたちの「伸びる・育つ」と「好奇心・探究心」を応援する。
- ・子どもたちが自分で考え行動し、自ら答えを見つける力を養う。
- ・子どもたちが自分自身のアイデンティティを形成し他者との共生を学ぶ。
- ・実生活で役立つスキルを身に付けていく。

3. 活動スケジュール 〈7月～9月 10～12月 1～3月〉

① 7月～9月

- ・子どもの姿から活動を考え実践する(予定:さまざまな音の鳴る玩具に触れてみる)
- ・保育室内に音の鳴る玩具(手作り玩具など)や飾りを置き、子ども達の姿を見守る。
- ・時には大人が声掛けをしながら、子どもの反応をよく観察し共感していく。
- ・さまざまな活動の中で自然物や楽器を取り入れていく。
- ・遊びの中で子どもが音を感じて遊び、探求している姿を写真におさめる。
- ・昼礼・週案・月会議にて、子どもの遊びの様子や反応、気づきを共有する。
- ・活動内容の成果と評価を写真と共に記録に残していく。

② 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

音の鳴る手作り玩具:クッション・マット・ポットン落とし・マラカス・ギター・太鼓・

ボン！ボン！ドラム（スポンジやタオルを握って引っ張り、手を離すと「ボン！」と良い音が鳴る楽器玩具です）

プルトイ:室内・戸外（紐を持って歩くと、後ろからついてきて音が鳴る）

風鈴を見て触り、作ってみる

フルートとピアノの音色を楽しもう♪（演奏者・親子・保育者）

- ・音の鳴る手作り玩具を作り、保育室内で自由に遊べるように設置した。
- ・音の鳴る玩具や飾り、楽器を増やしていく。
- ・保育室に用紙・ペンを設置し、子どもの姿で気付いたことをすぐにメモにとっていく。

4.探求活動の実践 〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

- ・音に子どもが気付き、反応をする。音がどこからするか子ども探している。
- ・「これとこれ、同じシャカシャカ」、「これは違う」と、音の違いに気が付き、伝える姿がある。
- ・保育者が振ったり叩いたり息を吹いたりして働きかけると、子ども達も模倣していた。
- ・玩具の色を1つひとつ言っている。音の違いに気が付くと「あれ？」と首を傾けている。
- ・ギター・太鼓を持ち、演奏をする真似をしながら、『たなばたさま』を歌っていた。
- ・風鈴は、風になびいて音がする様子に子ども達が気付き、しばらく観察をしていた。

また音が鳴らないかと風鈴を見つめ、待つ。保育者は子どもの気付きに「音が鳴ったね」、「きれいな音だね」、「また鳴るかなあ」などと声掛けをしたり共感し合う。

- ・演奏者の来園では、親子で童謡や、ディズニーの曲を聴き、子ども達は、演奏に合わせて音楽に乗り体を揺らす姿が見られた。

演奏者や保護者、友達の様子をよく見ながら機嫌よく過ごし、歌を歌ったり、手をたたいたり、歩いたり、事由に体を動かしたりとみんなで楽しんでいた。





5.振り返り 〈10～12月の活動について考える〉

- ・いつも過ごしている安心して環境だからこそ、初めての経験や物でも、子ども自身が主体的に遊びへ向かい、探求する姿が見られたと思う。
- ・毎日の保育の中で、同じ物でも環境設定を変えてみることで、子どもの興味関心にも繋がりが、子ども達が音を感じながら遊ぶ姿を見ることができた。
- ・音の違いに気づく姿があったので、マラカス等、手作りの玩具の中には何の素材が入っているのか、どの様に音が鳴る仕組みなのかを、一緒に見て考える活動も加えていく。